
あくび

ぬじゅわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あぐび

【Zコード】

Z2193M

【作者名】

ぬじゅわきし

【あらすじ】

八方美人で皆から美しく思われたいために10年間あぐびをがまんした花子。そこから始まるあぐびの暴走！！

あるところに某花子といつお嬢様がいました。

花子は皆から八方美人との評判でした。

これは決していい意味ではなく、皆から美しいと思われたがつてゐる人だということです。

ある日、高校生の花子が授業を受けていたときのことです。

その先生は「生徒を半殺し」にするという評判でした。これは暴力教師と言つわけではなく、逆にのらりくらりとした授業で生徒を眠らしてしまつからです。そして、花子は3日前からの寝不足がたたつて、大変眠そうでした。

花子は16歳から一つ決めていたことがあります。

それは、絶対にあぐびをしない事。人前であつてもなくともです。なぜなら、彼女にとつてあぐびの表情はアンチ・ビューティーつまり反美的で、知的な感じを失うと考えたからです。

したがつて、どんなに眠くてもあぐびは決して出さず、必死にあぐびをこらえていました。目頭から涙がでましたが、こらえました。あぐびをこらえるのはかなり苦しいですが、彼女は生理的欲求よりも自らへの美的感覚を重視したのです。

花子は時計を見ました。あと40分。

40分もあぐびをこらえるのは無理があります。こうなつたら仕方ありません。花子はそのまま寝ました。

寝るこことは彼女の美的感覚からしたら、合格だそうです。

このように花子はあくびという、反美的欲求を自分から追い出した
わけです。

しかし

時は移り花子が26歳のころ。

花子の父の誕生日パーティーで館は人でにぎわっていました。そろそろ、パーティ用の夕食が始まるときです。

花子はこのパーティーのために一生懸命に手伝いました。例えば料理作りや、室内装飾などです。そのため疲れていて、眠そうでした。

ふと、花子はあぐびしたくなりました。しかし、あわててあぐびをしないよついられました。

しかし、10年間抑圧されてきたあぐびにとつて、そつはいかなかつたのです。そつあぐびは強行手段に乗り切りました。

九月二日
晴

「それではみなさん、かんぱ～～～～～い。」

皆が乾杯したその時です。

花子は突然意思に反して口を思い切り大きく開きました。
そして勢い良くガーッと空気を吸い込み始めたのです。

皆はびっくりしました。

父が「どうしたの？」と聞きました。

花子は「あくいなとあらなー！（あくびがとまらない）」と息を吸い込みながら答えました。息を吸い込みながらしゃべるどじんなに恐ろしいかすれ声になるかっこ存知でしょう。皆は思わず笑い出しました。

「そんな、なに、冗談を。愉快な娘さんですねえ」

しかし、あまりにも息を吸うのが長いので皆は心配になりました。
過呼吸になってしまってはいけない。

そこで、父は花子のあごをつかみ、大きく開いた口を閉じさせました。

しかし、花子のあごはまるでセメントで矯正されたかのように動きません。

そこで、3人がかりで口を閉じさせたのですが、まったく駄目です。

花子は依然として掃除機のように息を吸い込んだままです。
そのうち、花子の体が風船のように膨らみました。空気を吸いすぎたからです。

それに伴い、花子の息を吸う風速も加速しました。パーティ用ディナーが全て花子の口の中に入り、パーティに出席した人々は花子に殺意が芽生え、各々ナイフを取り出しました。
花子は必死に弁解しました。

「わたしやない、わたしやない、あくいなとあらないかな」
口が閉まらないため、その弁解はまったく伝わりませんでした。
パーティの人々はナイフを持って襲い掛かりました。

しかし、花子の口はしだいに風速を上げ、体が膨らんだので口も大きくなり、パーティの人々はその風に耐え切れず花子の口の中に吸い込まれました。

そのまま花子はどんどん膨らみ、家を飲み込み、町を飲み込み、しだいに、地球をも飲み込んでしまいました。

ところが、花子のお腹の中は、ふつうの地球と同じでした。
吸い込まれながらも世界はあるべき方向に整理されていったのです。

宇宙はいつやつてできました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2193m/>

あくび

2010年10月21日03時06分発行